

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/2階)

事業所番号	2772001604		
法人名	住装		
事業所名	グループホームあびこやすらぎの里		
所在地	大阪府大阪市我孫子2-1-18		
自己評価作成日	令和3年12月25日	評価結果市町村受理日	令和4年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

虐待、身体拘束防止委員会を立ち上げ事業所として身体拘束防止にかかる指針を作成し日々の支援に活かしています。ただ単に気持ちを落ち着かせるための服薬を漫然と継続するのではなく、その人らしさを重視しながら出来る限り服薬を減らせるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を深掘して職員全員が理念に沿った支援が実施できるように努力しています。具体的には、全体会議、朝礼後の時間を活用し具体的な事例をあげて理念について話し合う機会としています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で町会の活動はほとんどなく交流はできていません。町内会の助賛会員としての参加は継続中であり情報の提供は受けております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独居高齢者で支援の必要な方や施設入居の相談などを受けており難しい事例などは地域包括を紹介しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に地域の方を招くことにより、事業所として気づかなかつたことを指摘して頂いたり、参加した入居者様に優しく質問や声掛けをしていただくことにより普段見られないような積極的なコミュニケーションの姿勢が見られます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護課のケースワーカーからの相談や問い合わせに対応できるよう連携をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束渡欧の適正化のための指針を作成し、会議、研修時に読み合わせを行い身体拘束をしない支援の実施を常に心がけています。気分の高揚時でも出来る限り薬の使用を控え、やむを得ず使用するときも1人の職員の判断せず出来る限り他の職員にも相談するように話し合いを継続しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の進退拘束・虐待防止の研修を実施し防止に努め、又通報の義務についても全職員が理解できるように研修の充実を図っています。ケアの難しい入居者の対応は、2人で行い職員のストレスを減らせるように考慮しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	何をもち「自分らしく生きるのか」を念頭に支援の方法を検討押していますが、本年度は事業所として権利擁護についての研修は出来ませんが大阪市の集団研修の資料を職員向けに配布し来年には研修の時間を持ちます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、重要事項説明書から読み上げて実例をあげながら説明をし疑問点、不安がないように対応をしています。その後契約書にサインを頂くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で施設内での面会が難しいが電話連絡時には必ず何か意見、要望が無いかを確認させていただいています。今後コロナ感染が落ち着いた場合は、家族様に雲梯推進会議への参加を呼びかける予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍以前は全体会議を毎月開催し全職員の参加を目標としてきたが現在は毎月の開催は難しく、開催時も人数を減らし、各ユニット代表者のみの参加としています。その出席者からユニットの意見、提案をまとめたものを発表してもらいながら、共有して運営に反映できるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の希望、能力を把握し考慮し配属するユニットを選択するようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護のリーダー研修、管理者研修は、人員配置基準上必須であり受講費用は会社負担で受講日は、勤務扱いとなっています。実践者研修、基礎研修についても希望者を募り受講料の補助制度もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に登録し、研修、活動の際の参加費用などは会社が負担しサービスの質の向上に向けた取り組みをしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居日までにご本人の人となりを少しでも理解し、職員が不安な様子を見せたり、戸惑いのないようにご本人や家族様に入居前必要情報紙に記入をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	身内を施設に預けなければいけないという後ろめたさを感じないように今までの苦労を労いながら、まず家族様としては、施設でどのように暮らして欲しいかをアンケートなどを利用して把握するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様それぞれを別に面談させていただき機会を持ち要望や課題にずれが無いかを確認し、必要な支援を見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	研修や職員との面談などを通して認知症ケアの倫理について理解して実践につながるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族様それぞれの思いを面談、アンケートから読み取り共感し、支援に当たっては、連絡を密に取り課題に対する目標の達成状況などを報告するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃のコミュニケーションの中で人間関係などの話題になった時には、馴染みの人や場についてお話をさせていただいたり、外出の際は馴染みの建物や物について声掛けするようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に暴言や危険が認められない限り関わり合いを無理に止めることはせず見守りを行っています。フロアでの座席位置も入居者同士が関わりやすくなるように様子を見て、落ち着いて過ごせるように適宜変更をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば連絡が取りあえるように許可を頂ける関係作りを心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望、意向を自ら表出できる入居者様は少ないが、日々のケアを通してその反応や表情などから把握するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様がいらっしゃる方は面談時に詳しくお聞きし、お1人の方は、担当ケアマネジャーなどからのアセスメント、サービス利用状況表などの資料その他かかりつけ医からの看護サマリーなどを参考に把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと介護職員共同でモニタリングを実施し、その結果を踏まえてケア会議を開き、あらかじめ得たご本人、家族様の意見・要望を合わせながら介護計画書を作成しています。会議に出席できない職員は、会議の要点表に意見を記入してもらっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入は、ケアの実施内容だけではなくその時の様子、表情や入居者様の発した言葉も記入し、その記録を職員間で共有することで介護計画書の見直しに活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活記録、業務日誌を職員間で共有することでニーズを掘り起こし、多職種との連携の必要性に気づき偏ったサービスや思い込みによる支援の実施を防ぐ取り組みをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会のボランティア活動の受け入れ事業所として登録したり、地域包括支援センターに相談し、出来る限り地域資源を活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍では、近所のスーパーへ買い物にも行けない状況であったがワクチン接種や感染の状況を見ながら買い物に出かけたり、オレンジカフェに行ったりを予定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療と同じ事業所から訪問看護に来ていただくことで、情報の共有や連絡がスムーズに実施出来、夜間や緊急時の相談にも対応して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中でも病院の相談員と密に連絡を取り合い退院に向けての情報を共有し退院後の施設での生活で気を付けることなどを相談して、安心して施設に戻って来られるように環境を整えるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時施設での支援の限界を説明し病状の重度化、終末期において医療処置が常に必要となった場合入院であったり、専門の施設への転居があり得ることを承諾して頂いています。またその兆候がある場合は家族様に早期にお知らせし連携病院とも情報を共有できる体制をとっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを随時追加したり変更し現状に即したものにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・避難訓練を実施しています。災害時の避難については、地域の訓練が実施される時には、参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に利用者様への声掛けは、苗字をさん付けで行い、プライバシーを損ねないように職員同士の報告、会話も気を配るように会議・研修で周知を徹底しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者様に対し傾聴の姿勢を保ち、一方的な指示や会話とならないように注意をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを職員一人一人が意識し一つの支援について事業所都合、職員都合で行われていないか話し合うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に持って来られた写真や衣服を参考にコミュニケーションをとり、その人らしい身だしなみを意識して支援するようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に時間がかかっても基本的に自力摂取を基本にしています。苦手なメニューがあるときは、出来る限り対応できるように調理職員が工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に食事があまりない方に対しては、医師に相談し栄養が確保できる補助食品を処方して頂いています。水分摂取量の少ない方には少量摂取を頻回摂取して頂くように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し口腔内の汚れ、臭いの予防だけでなく誤嚥性肺炎の予防にも大切であることを念頭に実施しています。毎週の訪問歯科によるケア、治療も継続中です。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の時間、特徴を把握し失禁を減らすようにトイレの声掛け、誘導を実施しています。夜間オムツ対応の方でも日中はできる限りパンツを使用しトイレを利用するように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食は牛乳と野菜もしくはヨーグルトを提供し、便通が良くなるようにしています。またトイレで上体の前傾姿勢を保持することが難しい方に対しては、上体前屈が可能となり便が出やすくなる体操、運動を介助しながら実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1回の声掛けでタイミングが合わない方には、時間を変えて2回、3回と声がけを実施してご本人の意思を尊重するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の空調は、一人一人の状況を夜勤者が確認し対応しています。休息は、昼夜逆転にならないように健康状態を確認しながら適宜対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療・訪問看護・薬局と必要に応じて相談をし、助言などを頂くようにしています。特に内容の変更、追加のある場合はご利用者の様態を注視、観察をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様、知人に協力を頂きながら嗜好品を調達して頂いたり、面会を楽しみにしている方については、実現できるように家族様、知人に伝えるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方には戸外に出かける実施していましたが、現在はコロナ感染状況を意識したものになっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望や必要のある方は、職員の見守りの中、ご本人が支払いできるように支援しています。また安心サポートをご利用の方は、ご本人同席で報告を受けるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や関係者からの電話は必ずお繋ぎし、自ら電話を使用したいという希望は随時可能となるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	起床の時間帯にはカーテンを開け、窓から日差しを感じれるように気配り、特にトイレ周りは不快を感じる事が無いように随時清掃することを心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の好み、その日その時の気分を汲み取り、過ごされる居場所を工夫するようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	まずご本人の希望を一番に考慮し、家族様と相談しながら備品の持ち込みに配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全と自立という難しい判断を職員間で話し合い、ご利用者様一人一人が出来る限り自由に過ごせるように動線の整備には気を配っています。 「環境整備委員会」の設置を検討中です。		